

赤岳鉱泉・硫黄岳望年山行報告

【山城】八ヶ岳：赤岳鉱泉・硫黄岳

【日程と天気】2017年12月2日（土）～3日 晴れ

【メンバー】CL 広木（愛）・寺崎：テント泊、菊池単独で計画書提出（赤岳鉱泉泊）：広木 Gr に合流

【行程】

1 日目

千葉—美濃戸口—赤岳山荘駐車場（1750m）9：28—北沢ルート—赤岳鉱泉（広木 Gr テント設営）—14：34 赤岩の頭—硫黄岳（2760m）（広木・寺崎は登頂、菊池は頂上直下でタイムアウト）—赤岳鉱泉（泊）

2 日目

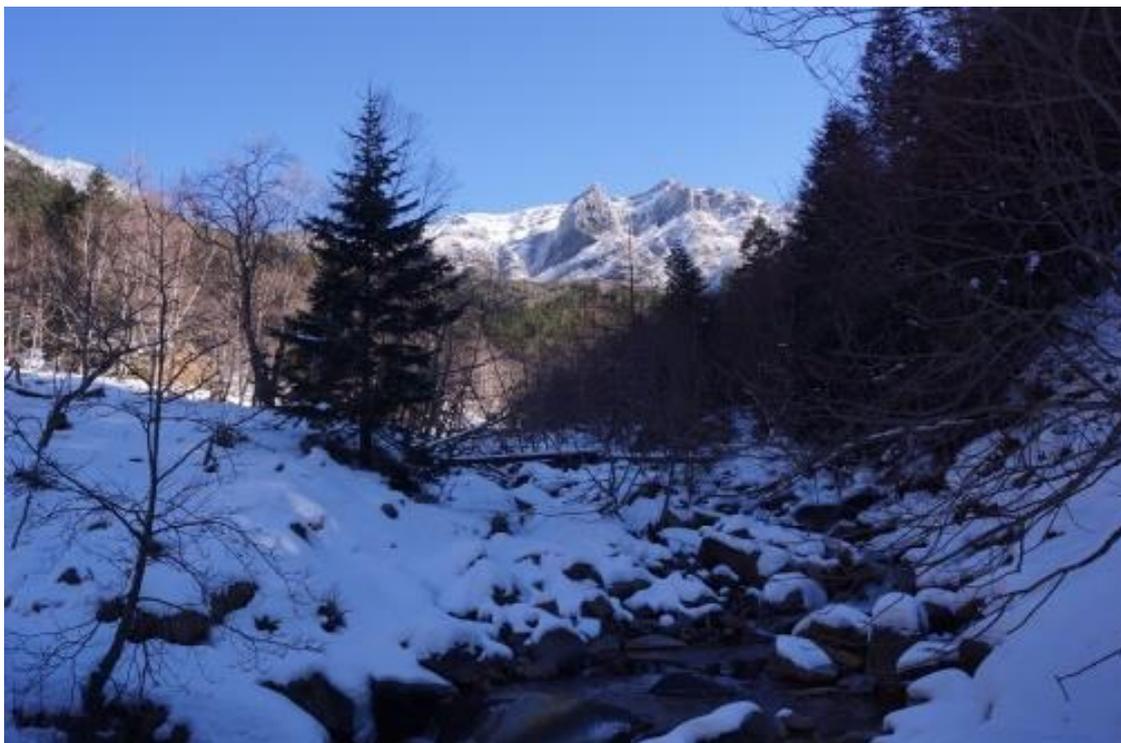
赤岳鉱泉—行者小屋—南沢ルート—赤岳山荘駐車場—帰葉



・望年山行・田中さん CL のグループに参加表明していたが、火曜日の朝に軽いギックリ腰を発症、回復傾向にあったが不安もあるため、広木さん CL の赤岳鉱泉から硫黄岳ピストンの計画に便乗させていただいた。またテント泊では重荷の負担が多く、以前より気になっていた赤岳鉱泉に初めて宿泊してみた。・標高 1750mの



赤岳山荘の駐車場に到着、支度をしていると、アイスクライミングの松原CL の若手グループも到着、記念撮影をして出発した。カマテンなどを担いでいるのか、大きなザックは重量 25 kg? 以上あるのではないか。さすがに若手の体力は素晴らしい。ぐいぐい進んで行く。われわれは亀足でゆっくり景色を楽しみながら進んだ。間もなく、大同心・小同心の横岳の雄姿が望まれ、テンションは自ずからアップする。阿赤岳鉱泉に着くと、若手が



早くもカマテンを設営し終わっていた。今年は早くから各地の高山では降雪の便りが届いていたが、赤岳鉱泉も 40 cm 前後の積雪で、広木さんにお聞きすると年末年始並みの積雪量であるとのことである。アイスキャンディーも見事な出来栄えになってきている。



赤岩の頭から硫黄岳に向かう登山道では吹き溜まりで 60 cm ほどの積雪であり、標高が高

く低温地帯のため、綺麗な新雪で覆われた初冬の南八ヶ岳の素晴らしさを堪能できた。女性陣のお二人は、赤岳鉱泉からの登りは軽身で快調に高度を上げたが、小生は荷物を全部背負って、更に最近体重が2kgほど多いため、ペースが上がらない。広木さんは週に4-5回ジムでトレーニング、寺崎さんは犬の散歩時に足にダンベルを付けるなどの努力で2kgほど減量、予想以上の体力で完全に脱帽でした。お二人は強風と低温



の中、硫黄岳山頂に登頂できたが、小生は頂上直下の岩場の下でタイムアウトでした。赤岩の頭から少し登ると杣添尾根からのハードルートを横岳・硫黄岳経由で下山してきた佐藤 Gr の若手精鋭部隊が降りてきた。ご褒美に赤岳・阿弥陀岳をバックに記念撮影してあげました。

間もなく登頂を終え下山してきた広木さん・寺崎さんはルンルン気分、ポーズのショットと撮影してあげました。暫く待っていると、マイテントを担いで夏沢鉱泉→オーレン小屋→夏沢峠→硫黄岳と頑張りぬいた田中 Gr の7名も下ってきました。ご褒美の記念撮影を2~3名撮影、赤岳鉱



泉への最後の下りを頑張りました。

- ・赤岳鉱泉宿泊は初体験、評判の美味しいステーキにバッチリ当たってラッキーでした。小生もカルチャーショックでした。夕食前にサッポロ黒生、氷結、夕食時にモルツの計350ml×3ですっかり良い気分、望年山行の宴会に行くのが面倒と考えたが、





ついつい酔いに任せてカマテンに顔を出しました。そこでも焼酎、ウイスキーなど頂き楽しい談笑、お開きの片づけが始まる頃、小屋に戻って間もなく消灯なのに、持参したブランディーを冬季限定の Rummy チョコを肴に食堂で一人寂しくいただきました。お陰様で、布団に入ると直ぐに熟睡できました。

- ・ 2日目は行者小屋経由夏沢ルートで下山です。行者小屋は年末年始以外閉鎖状態、テント数張りは寂しい状況です。年末年始にはテント村と化しさぞかし賑わうのでしょうか。

南沢ルートは終盤近くになると雪が少ないものの凍り付いている部分が多く神経を
使いました。



早々と帰葉したため、高速の渋滞もなく午後3時頃には帰宅できました。